

# 豊寿園

FRUITFUL TREE

# 豊かな樹

Summer 2023

Vol. 59

JAPANESE RED CROSS  
SOCIETY FUKUOKA  
PREFECTURAL CHAPTER  
THE SPECIAL NURSING HOME  
HOJYUEN

TOPICS

AREA INFORMATION

HOJYUEN×FAMILY

HOJYUEN'S ALBUM



# トピックス

## 消防訓練を行いました！

6月14日に、平日の昼間に園内で出火したことを想定した消防訓練を行いました。出火元の特定から初期消火、通報、避難誘導といった手順を確認していきました。これから火災以外にも大雨や台風などの災害も心配される時期になりますが、備蓄品などの確認を行いながら万一の備えをしていきます。



← houjuen.jrc



13  
投稿

7  
フォロワー

0  
フォロー中

日赤 豊寿園  
老人ホーム&介護付き住宅  
福岡県北九州市にある日本赤十字社が運営する社会福祉施設です。  
令和6年度採用の介護職員を募集しています。私達といっしょに働きませんか。<https://nissekihoujuen.jp/>  
[nissekihoujuen.jp/osirase.html](https://nissekihoujuen.jp/osirase.html)

フォロー中▼

メッセージ



## Instagram(インスタグラム)を開設しました！

豊寿園のInstagramアカウントを開設しました。以前から使用していますフェイスブックと同様に、園内行事や職員の業務風景などを様々に発信していきます。ぜひ、フォローして情報をご覧ください。

*Follow me!*

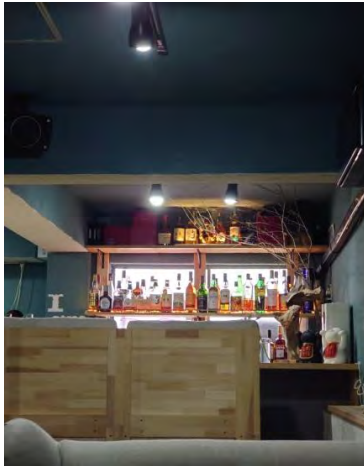
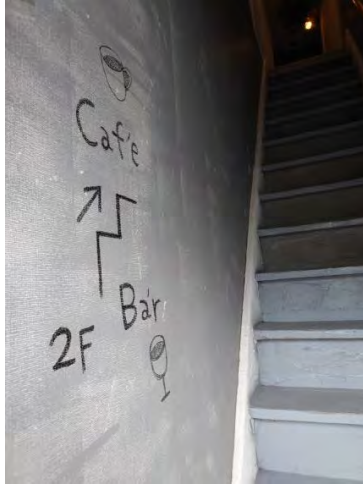
豊寿園のInstagramのアカウントは右のQRコードからお入りください



## 特養利用者様の健康診断を行いました！

6月に特養に入所されている利用者様の健康診断を園内で行いました。健診の結果で嘱託医から再検査や受診などの指示があれば、随時、契約者様へご連絡の上、随時、対応してまいります。

## 地域ぶらり情報



## ちょっとした隠れ家的な・・・

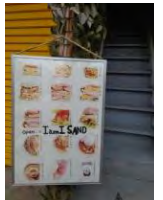
門司駅南口より不老通りを歩いていくと、左側のビルにひと際目を引く黄色いシャッターがあり、その横の細長い階段を上ると『Cafe&Bar lamI(アイアムアイ)』があります。2021年4月にオープンしたお店は、昼間はホットサンドをメインにしたカフェ、夜はバーをされています。今回はカフェの時間にお邪魔しました。ブルーを基調とした店内は、カウンターとテーブル席があり、奥のテーブル席のソファは体を包み込まれゆっくりくつろげます。フードは食材にこだわっており、食パンは門司の『うちのぱん』、糸島産のケチャップ、南阿蘇のバター等を使用されています。一番の人気メニューはホットサンド。中でもlamSANDは、野菜とたまごたっぷりでもりじナルのミートソースと相性抜群です。lamBURGERは、ごまたっぷりパンズに具材たっぷりでもっともボリュームがあります！

他にもフレンチトーストやコーヒーゼリーラテ、ストロベリースムージーなどのデザートもあります。

ぜひ一度、隠れ家のようなお店に行かれてみてはいかがでしょうか？

### Cafe&Bar lamI

北九州市門司区柳町2丁目2-13 2階  
 OPEN 11:00 ~ 17:00  
 21:00 ~ Last  
 TEL 093-342-8781  
 定休日 月曜日  
 駐車場 無し



## あとがき

5月の新型コロナウイルスの5類移行を経て、豊寿園でも対面面会が再開になり、以前に近い賑わいが戻ってきました。そんな中、コロナ禍に私を支えてくれたBiSHが6月29日で解散しました。彼女たちと過ごした3年間。毎日のように曲を聴きながら通勤し、目の前のことに全身全霊で取り組む姿に勇気をもらいました。そんな彼女たちの姿と、6月から4週間の実習に来られた慶成高等学校の生徒さんが重なって見えました。自分が今できないことに向き合い、取り組む姿は、日々、マンネリになりがちな自分に目の覚めるような刺激をもらいました。青春っていいな、学校っていいな、などと思ながらこれからの自分が取り組むべきことを考えました。そういうわけで、私はBiSHの次は、“新しい学校のリーダーズ”というグループを推してみることにします(笑)。BiSHや新しい学校のリーダーズのように、職員達が全身全霊で取り組むことのすべてはこの豊かな樹でご紹介していきます。今後の豊寿園にぜひ、ご期待ください。

豊寿園広報担当 森 英樹



今回表紙を飾ってくれたのは、2階特養棟で勤務されている吉村 隆磨(よしむらりゅうま)さんです。ゲームとアイドルと大盛ごほんをこよなく愛する、介護キャリア20年超のベテラン職員です。カッコ良いポーズにオタク風と、色々なイメージの撮影に快く協力してくれました。

## あなたと向き合った日々

HOJYUEN × Family

今回は、今年3月に豊寿園でお看取りさせていただきました井神久野様の利用開始から最期の時までの経過について、園内の記録をもとにご紹介します。

井神様は、門司港で生まれ、東京の青山にある洋裁学校を卒業後、門司港に戻り、家業の呉服店で働かれました。二十歳の時に、中学校の教員をしていたご主人と出会い、結婚。1男3女を育てながら、70歳まで呉服屋で働かれました。

90歳ごろから物忘れが目立つようになり、物忘れ外来を受診したところ、レビー小体型認知症と診断されました。不安から自宅にいと色々なところへ電話をかけ続けるため、電話代が2万円を超えたこともありました。



今回ご紹介する井神 久野様。おしゃれて周りへの気配りを欠かさな方でした。

利用開始から帰宅欲求の訴えが激しく、熱発され入院されました。

他施設でショートステイの利用を開始するも、感情の起伏が激しく、数時間しか過ごすことが出来ませんでした。主治医が感情の起伏に対して内服薬を調整したところ、歩くことができなくなり、自宅のベッドから転落されました。救急車で総合病院へ搬送されるも、動こうとされて安静が保てないことから退院を迫られました。自宅に戻るとご家族が仕事に出かけることが困難になるため、退院とあわせて豊寿園のショートステイを利用開始となりました。利用初日から帰宅欲求の訴えが強く、食事や内服の拒否が見られました。何とか2泊していただきましたが3日目に発熱されたことから、総合病院を受診し入院となりました。その後内服調整を目的に精神科医療機関を経て、平成31年1月に豊寿園に入所となりました。

まさに呉服店の女将さんのような日常を送られました。

特養に入所された井神様は、介助や内服の拒否も少なくなり、他利用者様と一緒に過ごすことが出来るようになっていました。同じテーブルの方にも「おにいさん、あの方にお茶をいれてあげて」や「これ少ないですけど食べてく

ださい。美味しいですよ。」など気を配り、ひざ掛けなどの布物が目に付けばそれを自分の手元に集め、しわを伸ばしてたたむなど、まさに呉服店の女将さんのような日常を送られました。膝が悪く、一人で歩かれては転倒されることもありましたが幸い骨折されることはありませんでした。食欲は旺盛で誰かに分けようとする時以外は残されることもありませんでした。それでも自分の意に沿わない介助には「いや」「しません」などとはつきりと拒否をされ、介護職員を困らせることも度々ありました。

徐々に身体機能は低下がみられるようになっていきました。

大病をすることもなく豊寿園での生活を送られて4年目の春。徐々に井神様も身体機能は低下がみられるようになっていきました。ご自分で摂られていた食事に食べ遊びが見られるようになり、介助を行うことも増えてきました。また、「もういりません」と徐々に残されることも見られるようになっていきました。元々、ふくよかだった体型も徐々に痩せていきました。睡眠サイ

HOJYUEN × Family

クルが不安定になり、昼は居眠りされ、夜間になると「誰か来てー」と声を出して眠れない日が出てきました。精神科の嘱託医師にて内服薬の調整を行いました。生活サイクルの乱れはすぐには改善しませんでした。

そんな不安定な日々の中、令和4年の8月に豊寿園で初めての新型コロナウィルスのクラスターが発生しました。井神様もほどなくして罹患され、居室内での安静生活を送っていたことになりました。幸い、重症化することなく療養期間を終えられましたが、身体機能の低下が見られ、ティルト型車いすでなければ座って、姿勢を保つことができなくなりました。食事は変わらず拒否などから不安定なまま推移していたため、食事内容を少ない量で栄養を摂っていただけの栄養補助食品を中心に変更しました。それでも気分がのらなければ介助しても吐き出してしまふ、といったことが続きました。9月頃からは「おなか痛い」と訴えられ、緩い便が続くようになりました。医療機関を受診しましたが原因はわからず、徐々に元気がなくなっていました。日中を離床して過ごすことが難しくなってきたため、食事以外はベッドで横になることが増えていきました。それでも、嫌な介助を行う際には「だれか来てー」「おとうさーん」など声を出しながら拒否され、介助する職員の手を叩く元気はありました。

令和5年になり、入所から5年目の春を迎えられたころから、食事と水分の拒否が続き、介助しても吐き出して

しまうため、医療機関へ輸液のため受診するようになりました。受診にはご家族にも同行していただき、受診先は担当医から今の井神様の状態は老衰である、と説明が行われました。ご家族の中で話し合いが行われ、点滴を嫌がられる井神様にこれ以上の処置は受けさせたくない、とお気持ちから豊寿園での看取りを希望され、3月20日から看取り対応を始めることになりました。

―ウソのように、拒否なく食べられ、職員は皆、驚きました―

ご家族へは、とにかくご本人がお好きだった食べ物を持ってきていただくようお願いしました。考えられたご家族は井神様がお元気なころから大好物だった牛肉のステーキをたべさせたいと、生肉を持ってこられました(笑)。少し驚きましたが厨房職員が美味しく焼き上げ、それをミキサーにかけご本人に提供しました。すると、あれだけ吐き出されてしまっていたのがウソのように、拒否なく食べられ、職員は皆、驚きました。他にも甘い物がお好きな井神様にプリンやチョコレートをご家族は何度も持つてこられました。それでも看取り対応から1週間ほど経つたころには、水分をほとんど摂ることがで

きなくなり、排尿量も減少していきました。ほとんど言葉が発さず、眠っている時間が多くなっていきました。それでもオムツを替えようとすると、無言で手で振り払おうとする行動が見られることに少し安心しました。

4月1日 体の低体温化が始まり、呼吸もやや乱れ始めました。  
4月2日 ご家族が面会に来られ、帰られた後、足の裏にチアノーゼが出現、さらに呼吸状態が変化していきました。ご家族に再度状況を報告、明日、遠方の娘さんと一緒に面会に来られる約束をしました。けれどもその日の晩、日付が変わる前ごろから呼吸状態がさらに変化、間隔が長くなっていきました。ご家族へ電話で連絡。ご家族が来園されるとすぐに呼吸が確認できなくなり、井神様は息を引き取られました。

呉服店の女将さんらしい周りへの気遣い、心配り、そして嫌なことには毅然と対応する、といった方でした。そして何よりも楽しいことが大好きな方でした。私たちは井神様の楽しそうな笑顔を忘れたいと思います。



入所間もない頃、ご家族と一緒にバスハイクに出かけたころの写真。おしゃべりで楽しいことが大好きな方でした。

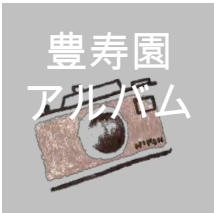


父の日



6月 ご家族にお越しいただき園内でお父さんとの記念撮影。

ドライブ



6月 門司港までドライブへ。

母の日



5月 お母さんたちに、ご家族の代わりに花束と甘いデザート。

七夕



7月 願い事を書いて飾りました。

イベント食



6月 厨房職員が目の前で注ぎ分け。いつもより美味しいと好評でした。

デ イ サ ー ビ ス



ドライブ



5月 たくさんの鯉のぼりが泳いでるのを見られ、久しぶりのドライブを楽しまれました。

運動会



厨房イベント



6月 アジサイゼリーを作りました。

6月 色々な競技や応援に自熱していました。

summer2023

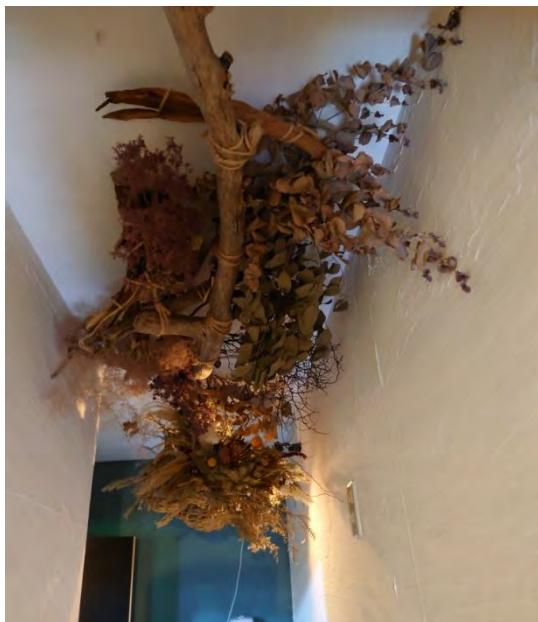
Vol . 59

TOPICS

AREA INFORMATION

HOJYUEN\*FAMILY

HOJYUEN'S ALBUM



# FRUITFUL TREE

JAPANESE RED CROSS SOCIETY FUKUOKA PREFECTURAL CHAPTER THE SPECIAL NURSING HOME HOJYUEN